Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォガイド

Nagoya Glorious Chapel

2023.7.24-30

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

Nagoya Glorious Chapel

24日　月曜

使徒

14:1 イコニオンでも、同じことが起こった。二人がユダヤ人の会堂に入って話をすると、ユダヤ人もギリシア人も大勢の人々が信じた。
14:2 ところが、信じようとしないユダヤ人たちは、異邦人たちを扇動して、兄弟たちに対して悪意を抱かせた。
14:3 それでも、二人は長く滞在し、主によって大胆に語った。主は彼らの手によってしるしと不思議を行わせ、その恵みのことばを証しされた。
14:4 すると、町の人々は二派に分かれ、一方はユダヤ人の側に、もう一方は使徒たちの側についた。
14:5 異邦人とユダヤ人が彼らの指導者たちと一緒になり、二人を辱めて石打ちにしようと企てたとき、
14:6 二人はそれを知って、リカオニアの町であるリステラとデルベ、およびその付近の地方に難を避け、
14:7 そこで福音の宣教を続けた。
14:8 さてリステラで、足の不自由な人が座っていた。彼は生まれつき足が動かず、これまで一度も歩いたことがなかった。
14:9 彼はパウロの話すことに耳を傾けていた。パウロは彼をじっと見つめ、癒やされるにふさわしい信仰があるのを見て、
14:10 大声で「自分の足で、まっすぐに立ちなさい」と言った。すると彼は飛び上がり、歩き出した。
14:11 群衆はパウロが行ったことを見て、声を張り上げ、リカオニア語で「神々が人間の姿をとって、私たちのところにお下りになった」と言った。

Bible Reference 聖書の記述

14:12 そして、バルナバをゼウスと呼び、パウロがおもに話す人だったことから、パウロをヘルメスと呼んだ。
14:13 すると、町の入り口にあるゼウス神殿の祭司が、雄牛数頭と花輪を門のところに持って来て、群衆と一緒にいけにえを献げようとした。
14:14 これを聞いた使徒たち、バルナバとパウロは、衣を裂いて群衆の中に飛び込んで行き、叫んだ。
14:15 「皆さん、どうしてこんなことをするのですか。私たちもあなたがたと同じ人間です。そして、あなたがたがこのような空しいことから離れて、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えているのです。
14:16 神は、過ぎ去った時代には、あらゆる国の人々がそれぞれ自分の道を歩むままにしておられました。
14:17 それでも、ご自分を証ししないでおられたのではありません。あなたがたに天からの雨と実りの季節を与え、食物と喜びであなたがたの心を満たすなど、恵みを施しておられたのです。」
14:18 こう言って二人は、群衆が自分たちにいけにえを献げるのを、かろうじてやめさせた。

イコニオムの町では大ぜいの人が信仰に入りましたが、その結果信じようとしない人々による分派が起こってしまいました。宣教によって町の一致が壊されてしまったとも言える出来事です。私たちはこれをどう理解したら良いでしょうか。

クリスチャンは平和を求めるべきですし、教会の中でも対立は避けたいことです。しかしそのために、つまり人間本位の平和を優先するあまり、神様の御心を損なうことは本末転倒です。神にさからったり無視したりすることで、サタンの求める方向に事は進んで行くのです。その結果はサタンが最終的に求めている、自己中心による人間の争いと神との断絶に陥ってしまいます。

神の御心を優先にしないで真の平和はありません。イエス様も家族間でさえ対立が起こると言われました（マタイ 10：36）が、これは神の教えに対して立場が二分されるという意味です。

人間本位の表面的な平和を保つために神の御心に目をつぶるようなことは避けましょう。神様の救いを第一とする本当の一致を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

25日　火曜

使徒

14:19 ところが、アンティオキアとイコニオンからユダヤ人たちがやって来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにした。彼らはパウロが死んだものと思って、町の外に引きずり出した。
14:20 しかし、弟子たちがパウロを囲んでいると、彼は立ち上がって町に入って行った。そして翌日、バルナバとともにデルベに向かった。
14:21 二人はこの町で福音を宣べ伝え、多くの人々を弟子としてから、リステラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返して、
14:22 弟子たちの心を強め、信仰にしっかりとどまるように勧めて、「私たちは、神の国に入るために、多くの苦しみを経なければならない」と語った。
14:23 また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食して祈った後、彼らをその信じている主にゆだねた。
14:24 二人はピシディアを通ってパンフィリアに着き、
14:25 ペルゲでみことばを語ってからアタリアに下り、
14:26 そこから船出してアンティオキアに帰った。そこは、二人が今回成し終えた働きのために、神の恵みにゆだねられて送り出された所であった。
14:27 そこに着くと、彼らは教会の人々を集め、神が自分たちとともに行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。
14:28 そして二人は、しばらくの間、弟子たちとともに過ごした。

Bible Reference 聖書の記述

パウロが多くの人々の反感を買っていたことは明白でしたし、誰もがその信仰に入るなら迫害されることも明らかでした。パウロ自身「苦しみを経なければならない」と言っています。一体誰がそんな宗教を信じるだろうかと思われるほどです。それでも多くの人がイエスを信じて弟子となりました。なぜでしょうか。

1つには明白に「神の国」が語られたからです。それは永遠の命であって地上のあらゆることに優る価値です。ですから救われた人は、たとえ「多くの苦しみを経た」としても、神の国に入るのです。

もう1つはパウロのモデルがあったからでしょう。パウロ自身もこの永遠の命の価値を知っていたので、半死半生に会いながらもまた宣教のためにまた迫害の町に引き返して行きました。人々はパウロやバルナバが払う犠牲を見て、それが本物であることを確認したのです。

この点で私たちは反省が必要かもしれません。犠牲を払わないようにしながら伝道し、絶大な価値を共有できないままクリスチャン生活を送り、苦しみを経るという覚悟のないまま歩み、神の御心を後回しにすることが当たり前になっている…。もしもそのような私たちであるなら、やがて日本には本当のクリスチャンがいなくなるかもしれません。

「もしも救われていなかったら」「もしも福音が伝えられなかったら」と、深く考えてみて、今のままで良いかどうかと主に聞いてみることも、時には必要なのではないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

26日　水曜

使徒

15:1 さて、ある人々がユダヤから下って来て、兄弟たちに「モーセの慣習にしたがって割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と教えていた。
15:2 それで、パウロやバルナバと彼らの間に激しい対立と論争が生じたので、パウロとバルナバ、そのほかの何人かが、この問題について使徒たちや長老たちと話し合うために、エルサレムに上ることになった。
15:3 こうして彼らは教会の人々に送り出され、フェニキアとサマリアを通って行った。道々、異邦人の回心について詳しく伝えたので、すべての兄弟たちに大きな喜びをもたらした。
15:4 エルサレムに着くと、彼らは教会の人々と使徒たちと長老たちに迎えられた。それで、神が彼らとともにいて行われたことをすべて報告した。
15:5 ところが、パリサイ派の者で信者になった人たちが立ち上がり、「異邦人にも割礼を受けさせ、モーセの律法を守るように命じるべきである」と言った。
15:6 そこで使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。
15:7 多くの論争があった後、ペテロが立って彼らに言った。「兄弟たち。ご存じのとおり、神は以前にあなたがたの中から私をお選びになり、異邦人が私の口から福音のことばを聞いて信じるようにされました。
15:8 そして、人の心をご存じである神は、私たちに与えられたのと同じように、異邦人にも聖霊を与えて、彼らのために証しをされました。
15:9 私たちと彼らの間に何の差別もつけず、彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。
15:10 そうであるなら、なぜ今あなたがたは、私たちの先祖たちも私たちも負いきれなかったくびきを、あの弟子たちの首に掛けて、神を試みるのですか。
15:11 私たちは、主イエスの恵みによって救われると信じていますが、あの人たちも同じなのです。」

律法による救いでは誰も救われず、十字架の恵みによって救いを与えてくださるというのは、神様の御心であって避けられない流れです。しかしそれまで古い価値観で生きて来た人々も含めて全体が一致して動き出すには、時間と労力が必要なものです。その過渡期を教会がどのようにして乗り越えたかが、ここに記されています。

第一には「激しい対立や論争が生じ」ても、それを敗北とは考えないで、むしろそれを前進の糧としたことです。きっとその論争は個人的な感情ではなく、主のための純粋なものであったからでしょう。

第二には神みわざを分かち合ったことです。「大きな喜びをもたらした」とあります。自論に固執したり、論争相手を批判したりすることからは何も生まれません。むしろ良きところに目を留めることによって神の導きが分かってきます。

第三には主にある兄弟たちが（ときには姉妹も）十分に話し合うということです。「この問題を検討するために集まった」とあります。忙しいとか疲れるなどという理由で人任せにするのではなく、また自分のプライドや自己流の解釈を通すためでもなく、ただ主の尊いみわざが進むために集まるのです。そのような献身的な人がどれほどいるか…が問われます。

そのようにして最後はペテロを通して主の御心が語られます。それはまさに十字架にある主の思いそのものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

27日　木曜

使徒

15:12 すると、全会衆は静かになった。そして、バルナバとパウロが、神が彼らを通して異邦人の間で行われたしるしと不思議について話すのに、耳を傾けた。
15:13 二人が話し終えると、ヤコブが応じて言った。「兄弟たち、私の言うことを聞いてください。
15:14 神が初めに、どのように異邦人を顧みて、彼らの中から御名のために民をお召しになったかについては、シメオンが説明しました。
15:15 預言者たちのことばもこれと一致していて、次のように書かれています。
15:16 『その後、わたしは倒れているダビデの仮庵を再び建て直す。その廃墟を建て直し、それを堅く立てる。
15:17 それは、人々のうちの残りの者とわたしの名で呼ばれるすべての異邦人が、主を求めるようになるためだ。
15:18 ――昔から知らされていたこと、それを行う主のことば。』
15:19 ですから、私の判断では、異邦人の間で神に立ち返る者たちを悩ませてはいけません。
15:20 ただ、偶像に供えて汚れたものと、淫らな行いと、絞め殺したものと、血とを避けるように、彼らに書き送るべきです。
15:21 モーセの律法は、昔から町ごとに宣べ伝える者たちがいて、安息日ごとに諸会堂で読まれているからです。」
15:22 そこで、使徒たちと長老たちは、全教会とともに、自分たちの中から人を選んで、パウロとバルナバと一緒にアンティオキアに送ることに決めた。選ばれたのはバルサバと呼ばれるユダとシラスで、兄弟たちの間で指導的な人であった。
15:23 彼らはこの人たちに託して、こう書き送った。「兄弟である使徒たちと長老たちは、アンティオキア、シリア、キリキアにいる異邦人の兄弟たちに、あいさつを送ります。
15:24 私たちは何も指示していないのに、私たちの中のある者たちが出て行って、いろいろなことを言ってあなたがたを混乱させ、あなたがたの心を動揺させたと聞きました。
15:25 そこで私たちは人を選び、私たちの愛するバルナバとパウロと一緒に、あなたがたのところに送ることを、全会一致で決めました。
15:26 私たちの主イエス・キリストの名のために、いのちを献げている、バルナバとパウロと一緒にです。
15:27 こういうわけで、私たちはユダとシラスを遣わします。彼らは口頭で同じことを伝えるでしょう。
15:28 聖霊と私たちは、次の必要なことのほかには、あなたがたに、それ以上のどんな重荷も負わせないことを決めました。
15:29 すなわち、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、淫らな行いを避けることです。これらを避けていれば、それで結構です。祝福を祈ります。」

バルナバとパウロという献身した2人が主のみわざを証言するのですから、人々はそれを尊重しないわけにはいきません。またヤコブもそれに対して聖書のみことばから裏付ける発言をしました。主のみわざと聖書がやはり決め手になります。

さらに主のみわざが進むためにヤコブは発言します。「異邦人を悩ませる」ようなことがあるなら、当然主のみわざを妨げることになります。このようにして異邦人である私たちに「信仰による救い」を明確してくださったのは背後に導かれる主であるとともに、その主に仕えた人々の働きを通してなのです。

私たちも主のみわざに対して、固定観念や立場で妨げることなく、むしろ力になるようでありましょう。

手紙の内容は、救いのためには律法の重荷を科する必要がないということでした。救いは律法ではなく、主イエスの十字架を受け入れる信仰によるということが明確になったのです。

またその中には前述のように、「偶像に供えて汚れた物と不品行と絞め殺した物と血」についての注意書きがありました。それはユダヤ人に配慮してのことでありますし、また不品行（結婚以外の性的関係）を避けるのは当たり前のことでもあります。クリスチャンは救いの教理を知っていれば十分というのではなく、交わりや証しを健全に保つための配慮も必要なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

28日　金曜

使徒

15:30 さて、一行は送り出されてアンティオキアに下り、教会の会衆を集めて手紙を手渡した。
15:31 人々はそれを読んで、その励ましのことばに喜んだ。
15:32 ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、力づけた。
15:33 二人は、しばらく滞在した後、兄弟たちの平安のあいさつに送られて、自分たちを遣わした人々のところに帰って行った。
15:34 【本節欠如】
15:35 パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって、ほかの多くの人々とともに、主のことばを教え、福音を宣べ伝えた。
15:36 それから数日後、パウロはバルナバに言った。「さあ、先に主のことばを宣べ伝えたすべての町で、兄弟たちがどうしているか、また行って見て来ようではありませんか。」
15:37 バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネを一緒に連れて行くつもりであった。
15:38 しかしパウロは、パンフィリアで一行から離れて働きに同行しなかった者は、連れて行かないほうがよいと考えた。
15:39 こうして激しい議論になり、その結果、互いに別行動をとることになった。バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡って行き、
15:40 パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。
15:41 そしてシリアおよびキリキアを通り、諸教会を力づけた。

Bible Reference 聖書の記述

36節からは「第二回伝道旅行」について記されています。これはパウロの個人的な発案でありますが、教会のビジョンで送り出された地域への再訪問ですから、それに沿ったものです。そのようなすばらしい働きではありましたが、そこにでさえ「激しい反目」が生まれました。
バルナバはマルコのいとこでしたが、それ以上に2人の宣教に対する姿勢の違いから来たようです。パウロは困難と厳しさを思い、マルコのためにも同伴は無理と考え、バルナバはチャンスを与えてあげたいと思ったのでしょう。どちらが正しいとは言えない問題です。このように教会には善悪では計れない相違が生まれるもので、それ自体がトラブルというわけではありません。
ここで両者は個人的なプライドや優劣で戦うことはしませんでした。そこで結果的は主のみわざが前進したのです。すなわちチームが二つに増えて、もっと神の可能性が広がったのでした。
違いをむしろ主の前進としてゆくにはどうしたら良いか…これを祈り求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

29日　土曜

使徒

16:1 それからパウロはデルベに、そしてリステラに行った。すると、そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ人女性の子で、父親はギリシア人であった。
16:2 彼は、リステラとイコニオンの兄弟たちの間で評判の良い人であった。
16:3 パウロは、このテモテを連れて行きたかった。それで、その地方にいるユダヤ人たちのために、彼に割礼を受けさせた。彼の父親がギリシア人であることを、皆が知っていたからである。
16:4 彼らは町々を巡り、エルサレムの使徒たちと長老たちが決めた規定を、守るべきものとして人々に伝えた。
16:5 こうして諸教会は信仰を強められ、人数も日ごとに増えていった。
16:6 それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フリュギア・ガラテヤの地方を通って行った。
16:7 こうしてミシアの近くまで来たとき、ビティニアに進もうとしたが、イエスの御霊がそれを許されなかった。
16:8 それでミシアを通って、トロアスに下った。
16:9 その夜、パウロは幻を見た。一人のマケドニア人が立って、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」と懇願するのであった。
16:10 パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニアに渡ることにした。彼らに福音を宣べ伝えるために、神が私たちを召しておられるのだと確信したからである。

割礼とは男性器の皮を切除することで、それが神のものであるという印として、神様ご自身から命令されていたことでした。当然異邦人からは奇異な習慣に見られたでしょうが、それだからこそ神に従うかどうかの目安になったのかもしれません。

もちろんイエス様の十字架の身代わりによって罪赦されるのですから、割礼があるかどうかは救いの条件ではありません。しかしユダヤ人に受け入れられるためには、それが必要だったのでマルコは割礼を受けたのです。

ここに律法から真に自由になった人の姿があります。もちろん律法の強制から自由になった姿であり、同時に律法に反対するあまり使命を果たせなくなる「反律法の固執」から自由になった人の姿です。救われた者は、神の御心であるなら喜んで律法を守ることさえできるのです。

さて、パウロたちは当初の計画が果たせず（イエスの御霊がそれをお許しにならず）、トロアスに来てしまいましたが、マケドニアに行くことが主の御心と確信しました。

この確信とは「証拠を集めて検証する」という意味のことばです。つまりパウロは、これまで従ってきた「聖書のことば」、これまで導き幻をお見せになった「神のみわざ」、幻で心動かされた「聖霊の感動」、私たちとあるように「クリスチャンの賛同」があって、それらが証拠となって確信に至ったということです。そしてパウロたちはルデアに出会え、宣教が進んだのです。

人生の導きが必要なときのためにぜひ覚えておきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

30日　日曜

使徒

16:11 私たちはトロアスから船出して、サ
モトラケに直航し、翌日ネアポリスに着いた。
16:12 そこからピリピに行った。この町はマ
ケドニアのこの地方の主要な町で、植民都市
であった。私たちはこの町に数日滞在した。
16:13 そして安息日に、私たちは町の門の外
に出て、祈り場があると思われた川岸に行き、
そこに腰を下ろして、集まって来た女たちに
話をした。
16:14 リディアという名の女の人が聞いてい
た。ティアティラ市の紫布の商人で、神を敬
う人であった。主は彼女の心を開いて、パウ
ロの語ることに心を留めるようにされた。
16:15 そして、彼女とその家族の者たちがバ
プテスマを受けたとき、彼女は「私が主を信
じる者だとお思いでしたら、私の家に来てお
泊まりください」と懇願し、無理やり私たち
にそうさせた。
16:16 さて、祈り場に行く途中のことで
あった。私たちは占いの霊につかれた若い女
奴隷に出会った。この女は占いをして、主人
たちに多くの利益を得させていた。
16:17 彼女はパウロや私たちの後について来
て、「この人たちは、いと高き神のしもべた
ちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えてい
ます」と叫び続けた。
16:18 何日もこんなことをするので、困り果
てたパウロは、振り向いてその霊に、「イエ
ス・キリストの名によっておまえに命じる。
この女から出て行け」と言った。すると、た
だちに霊は出て行った。

この女性は「占いで利益を得させていた」というのですから、けっこう当たったのでしょう。しかし、「幾日もこんなことをする」とあるように、その行動はあきらかに正常ではありませんでした。
このように悪霊は不思議な力があるものの、人を不幸に陥れるのが常なのです。悪霊とは反キリストの霊であって、人を救いから遠ざけるものです。
さらに「もうける望みがなくなって」とあるように、悪霊は人の欲望に取り付き利用します。さらにはパウロたちを迫害したように、神とその働きに害を与えます。悪霊の力や働きを見抜けるようになりましょう。それには聖霊に従う者であることです。
神はそのような悪霊をあばき、悪霊の力を利用して、結果的に看守とその家族を救われたのですから。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？